



三重県立熊野古道センターからのてがみ

"The Letter from Mie Prefecture Kumano Kodo Center"

2013.秋号

通号 No.28



9月29日いよいよ開通！ 熊野尾鷲道路

江戸時代から続く 東紀州の道の歴史

東紀州の道路の歴史	
明治21年	熊野街道第1次改修工事が竣工、二ツ木屋～大橋～七曲り～小坪～矢ノ川峠が車道として完成
大正4年・9年	木本～鶴殿間、松阪～尾鷲間でそれぞれ定期乗合自動車が運行開始
大正11年	尾鷲～上木本間の定期乗合自動車が運行開始(夏期のみ)
昭和2年	大橋～小坪間に安全索道が開通(日本初の本格的旅客ロープウェイ)
昭和11年	省営バス(のちの国鉄バス)紀南線が尾鷲～上木本間(矢ノ川峠・評議峠経由、後に佐田坂経由)の運行開始、安全索道は廃止となる
昭和15年	紀勢西線の木本開通に伴い、バス路線が上木本間から紀伊木本まで延長
昭和34年	7月14日 国鉄バス紀南線廃止
昭和43年	現在の国道42号線矢ノ川トンネルが竣工
平成24年	紀勢自動車道海山～尾鷲北間が開通
平成25年	紀勢自動車道 紀勢大内山～紀伊長島間が開通 9月29日 尾鷲熊野道路開通予定

東紀州の道の歴史はとて古く、熊野を目指す巡礼者や住民の生活道として、熊野古道伊勢路を江戸時代から多くの人が利用していました。紀州藩でも交通路としての重要性から、初代藩主の徳川頼宣や、5代・吉宗の時代などに道を拡幅し、豪雨にも絶える石畳を整備し、明治時代以降に、道路や鉄道が整備され、次第に交通手段が変化していきました。

明治21年、熊野街道第一次改修工事が始まってから少しずつ自動車道が広がり、昭和11年ついに、尾鷲～熊野(上木本)間の旧矢ノ川峠を越える省営バス紀南線の運行が開始され、地域の架け橋となりました。昭和34年の国鉄紀勢本線の全通に伴い、運行から23年で省営バスは廃止されましたが、その後も一般道として旧矢ノ川峠は利用されました。

その後、昭和43年に現在の国道42号線が竣工し、2時間45分程かかった尾鷲～熊野間が40分ほどに短縮されました。死亡事故も起きる、長く厳しい難所が回避されたことを思うと、当時の人々の喜びと苦勞がとて大きなものだったと感じられます。



そして、平成25年9月29日、尾鷲市と熊野市を新しく繋ぐ道『熊野尾鷲道路』が開通します。くねくねとした矢ノ川峠、佐田坂を回避した

奥深い紀伊半島を網羅する熊野古道にほれ込み、ガイドと旅イラストレーターとしての活動をしております。

都市部で生まれ育った私が紀伊半島にほれ込んだのはまだ7歳の頃、家族で和歌山県の川湯温泉へ旅行をした際に、国道42号線の車窓から飛び込んでくる深い山並みに感銘したことから始まりました。6歳まで名古屋で過ごし、常日頃からコンクリートの壁や色とりどりの街灯になじんでいた幼い私にとって、霧にかすんだ幾重にも重なる深い山並みや、山間から突然のよう現れる熊野灘の大海原は衝撃的であり、その時目に焼き付いた紀伊半島の深い山並みの残像が、以降ずっと頭の片隅にありました。



松本峠「ここまで来たんだ」と感じるヒトキ

熊野古道からのてがみ
28 通目

時は流れて成人となり、旅、トレッキングそして絵を描くことに明け暮れていたある日、知人から熊野古道踏査をしないかというお話をいただいたことを機に、兼ねてから憧れだった紀伊半島へ2005年9月に移住することにしました。熊野古道伊勢路を実際に踏破してみたいと感じたことこの道には計り知れない「パワー」が潜んでいる！

峠道に敷かれている石畳、季節ごとに咲く沿道の草木花、巨岩、滝、木々の合間から見える幾重にも連なる山並み、大海原…全てのものに「生命」を感じました。そして、この道を旅人が通る道として守ってきた人々、強い信念を

胸に通った人々の息吹がそれらを縫って伝わってきました。幼いころに衝撃を受けた紀伊の山並みを縫う熊野古道は、想像以上に奥深く、私はその世界観にどんだんのめりこんでいました。より多くの人に五感を駆使してこの道を歩いていただきたい思いから、言葉で伝えるガイド活動の他、得意なイラスト絵地図でこの道の距離感、周囲の自然環境の奥行きを表現する活動を続けています。

私が幼いころに得たインスピレーションを、紀伊半島と縁を持ったすべての人へ。



うめの 植野 めぐみさん
(熊野市)
旅工房「ちきゅうの道」代表
旅イラストレーター
熊野古道語り部友の会会員

筆リレー
次は熊野市の
中平孝之さん

花尻 薫からの季節のたより No.28

人の歩みとともに繁殖してきた植物 エノコログサ



エノコログサの穂は子犬のしっぽに似ています。猫の近くで穂を振ると、猫がじゃれて色々な動作をします。それでネコジャラシとも言われています。

人間がこの地球に誕生した石器時代から縄文時代には、すでに人々の生活の周りには何種類もの植物が生えていたと思われま。熊野市有馬町中ノ茶屋の縄文時代の遺跡から出土した、縄文時代の石包丁や土器と同時にムラサキエノコログサやツククサなどが発見されました。

これらの植物は、約4千年もの長い間、地中に埋もれて生きていたのです。その後、目を出したので古代の植物として専門の学者により紹介されました。約4千年前にはすでに人々の生活の周りには何種類かの植物が繁殖していたことが分かりました。

これらの人の周りに繁殖していた植物を人里植物と称しているのです。その後、人里植物がいろいろな場所に広がり野生化しました。

これらの植物を野生植物と呼んでいます。今では、畑や他のやっかいな植物として、人間に嫌われているのです。秋になると雑草が色々な場所に実を付けて空き地などに繁殖してくるのです。実の広がり方も、風に吹かれたり、水に流されたり、動物にくっついたり様々です。現在世界には約35万種類の植物が繁殖しているといわれています。

センター敷地内『夢古道おわせ』へぜひお立ち寄りください！

お母ちゃんのランチバイキング
東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

営業時間: 11:00～14:00
料 金: 中学生以上 ……1,200円
小学生以上 ……700円
4歳～小学生 ……300円
乳幼児 ……無料
60歳以上 ……1,000円

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」
深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上がり後もポカポカです。

開館時間: 10:00～21:00
入 浴 料: 一般 ……600円
65歳以上 ……500円
4歳～小学生 ……300円
4歳未満 ……無料

お風呂あがり、カフェでゆったり

営業時間: 9:00～17:00
(最終受付 16:30)



●お車でお越しの方は…
国道42号線で尾鷲市内→矢ノ浜交差点を海側へ曲がる→突き当たりを右折→県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)

●電車でお越しの方は…
■JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター前」下車
■松原駅
→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

★熊野古道センターニュースレター★ “熊野古道センターからのてがみ 2013年秋号”

- 発行日: 2013年9月20日(季刊)
 - 編集・発行: 三重県立熊野古道センター (三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
 - 編集担当: 野田
 - 連絡先: 〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4 TEL 0597-25-2666 FAX 0597-25-2667 Mail info@kumanokodocenter.com HP http://www.kumanokodocenter.com/
 - 開館時間: 午前9時～午後5時
 - 入場料: 無料
 - 休館日: 12月16日、17日、31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)
- 60000130920RN

熊野古道フォトコンテスト作品募集中!



写真を通じて熊野古道とその周辺にある自然や祭り、風物詩など、東紀州の様々な魅力を再発見するためのフォトコンテストです。

今年度も、Lサイズまたは2Lサイズで熊野を訪れた人の思い出写真など気軽に応募していただくことのできる“お気軽”部門を設けております。テーマは自由。旅の思い出や日常のひとこまなど、東紀州の魅力の自由な表現した写真をお待ちしております。

とっておき部門

テーマ「東紀州の四季」

風景・祭り・風物詩などを通じて、東紀州の四季の魅力を表現した写真



平成24年度【とっておき部門 最優秀賞】 田上博さん「天の川」

- 最優秀賞(1点) 賞金5万円
優秀賞(2点) 賞金2万円
入選(多数) 記念品(5,000円相当)

お気軽部門

テーマ「自由」

旅の思い出や日常のひとこまなど、東紀州の魅力の自由な表現した写真



平成24年度【お気軽部門 最優秀賞】 鳥山光さん「ワミガメと友達」

- 最優秀賞(1点) 東紀州の特産品(1万円相当)
優秀賞(2点) 記念品(3,000円相当)

平成25年12月16日(月) 当日必着
審査委員長 竹内敏信氏(社団法人日本写真家協会会員、熊野古道写真学校長)
お気軽部門 主催者が委託した審査委員

応募先・問合せ先 三重県立熊野古道センター フォトコンテスト係

応募はすべて、東紀州地域内(三重県北牟婁郡紀北町、尾鷲市、熊野市、南牟婁郡御坊町、南牟婁郡紀宝町)の被写体を撮影した未発表の作品に限ります。

和歌山県世界遺産センターからのお知らせ

和歌山県世界遺産協議会(事務局:和歌山県世界遺産センター)では、世界遺産の価値を次世代へ正しく伝えるために、「次世代育成事業」を実施しています。

また、世界遺産の良好な保全と活用について、皆様にご理解を深めていただくために、9月と11月に高野地域で世界遺産セミナーを開催いたします。

今年度、和歌山県世界遺産センターが行う参詣道保全活動(道普請)は、現在のところ10団体(494名)に参加していただいています。

詳細につきましては、和歌山県商工観光労働部観光振興課世界遺産班(073-421-2424)までお問合せ下さい。

平成25年度第3・4回世界遺産セミナー(予定)

第3回世界遺産セミナー
演題:「高野参詣の作法と利益」
講師:山陰 加春夫氏(高野山大学名誉教授)
場所:高野町中央公民館(和歌山県伊都郡高野山486番地)
9/22(日) 13:00~15:00

第4回世界遺産セミナー
内容:「丹生都比売神社等の建造物について」
場所:かつらぎ総合文化会館「あじさいホール」(和歌山県伊都郡かつらぎ町大字丁ノ町2454番地)
11/10(日) 13:00~15:00



環境保全トレッキングの様子

参加費は無料 事前申込み不要

「道普請」とは 文化財保護専門職員による参詣道の中核、参詣道の保全活動(土入れ・側溝清掃等)を行っていただくものです。ボランティア活動・CSR活動として、毎年、多くの皆さまに参加していただいています。

お問合せ先

和歌山県世界遺産センター 住所:和歌山県田辺市本宮町本宮100-1
TEL:0735-42-1044 FAX:0735-42-1560 E-mail:e0624002@pref.wakayama.lg.jp

その他 Guide&Tips

心癒した思い出の場所 ~中村山からの眺め~

77年前、尾鷲市出身の作家・榎山繁樹(土井治)に誘われ、一人の詩人(建築家)が尾鷲に降り立った。彼の名は、立原道造という。

信濃道分で出会った彼らは、意気投合し毎日のように散歩に行き、さまざまな事について語り合った。そんな時、ある出来事がきっかけで、立原道造は榎山繁樹の郷里「紀州の旅」に出る。

夏の終りの夕方、二人は尾鷲市の中村山に行った。ここから眺めた尾鷲湾、沖あいの岬や島々、夕日をつけた尾鷲の町並みなど、立原道造の心をどんなに癒したことでしょう。

東京生まれ東京育ちの彼の生涯の大きな転機となった「紀州の旅」。読書の秋に、このような思い出の場所を巡るのもいいですね。

「参詣道・熊野古道の紅葉」

春夏秋冬様々な表情をみせる熊野古道。その熊野古道を彩る秋の紅葉を紹介いたします。

奈良県を通る小辺路は紀伊山地でも比較的標高の高い所を通る参詣道で、10月中旬以降ブナやミズナラといった木々が色づきます。

和歌山県の中辺路では人の生活と密着した里山が点在し、クワやコナラなどの樹木が黄色く色づきます。海岸線とほぼ平行に走る伊勢路は登高差の大きい峠道が多く、その峠道ではカエデやヤマザクラなどの紅葉が見られます。いずれの参詣道も地域特有の紅葉が見られ秋の熊野古道を鮮やかに彩ります。



イベント情報 Event Info.

企画展 東紀州を訪れた文学者たち

いこしえから、多くの人々が険しい峠や難所を越え「熊野古道伊勢路」を旅し、信仰の聖地を目指してきました。この「熊野古道伊勢路」の精神文化と、雄大に果てしなく続く熊野灘、急峻な山々が迫りくる東紀州地域は、開放的で自然豊かな風景と温暖な気候が特徴で、多くの文学者たちを惹きつけてきました。

この企画展では、旅や仕事で東紀州地域を訪れた文学者や、地元出身の文学者について紹介すると共に、東紀州地域を舞台にした作品紹介や地元の人々との交流などを紹介します。

期間:平成25年10月5日(土)~平成25年12月8日(日)
午前9時~午後5時 *期間中無休
入場料:無料
場所:企画展示室

付録イベント 1 11/30(土)シンポジウム「東紀州を訪れた文学者たち」

時間:午後1時30分~午後3時30分
参加料:無料
定員:100名(要申込・先着順)
場所:映像ホール
出演者:半田美永氏(皇學館大学文学部教授)、他
主催:三重県立熊野古道センター、紀北地域活性化局

付録イベント 2 12/7(土)新しい古道の歩き方「句碑めぐり」

時間:午前9時~午後3時
参加料:2,500円(保険料・バス代・弁当代含む)
定員:20名(要申込・先着順)
場所:紀北町内
講師:湊章治氏(紀北町俳句協会会長)、川端久夫氏(海山俳句協会会長)

付録イベント 3 10/5(土)体験学習「五・七・五の世界を楽しむ」

時間:午前10時~正午 参加料:200円/名
定員:15組程度(要申込・先着順)
対象:小学4年生以上の親子
場所:熊野古道センター周辺、体験学習室
講師:湊章治氏(紀北町俳句協会会長)、川端久夫氏(海山俳句協会会長)

特別展 書の偉人 日下部鳴鶴

日本近代書道を大成した書の偉人と言われる日下部鳴鶴(天保9年・1838~大正11年・1922)が、明治39年に東紀州地域に足を伸ばした際に紀伊長島と尾鷲市九鬼町に残っていたとされる書を展示します。また併せて、日下部鳴鶴と交友関係があった九鬼町の田崎家に残る自筆の書簡も展示します。

期間:平成25年9月7日(土)~平成25年11月10日(日)
午前10時~午後3時 *期間中無休
入場料:無料
場所:特別展示室

体験学習

11/4(月・祝) 東紀州の四季を味わう料理教室~エビマイタリアン~

東紀州の旬の食材や特産品を使った大人気の料理教室です。尾鷲で捕れる新鮮なエビを使ったとっておきのレシピを紹介します。

時間:午前10時~午後1時
参加料:2,000円
定員:24名(要申込)*応募者多数の場合は抽選になります
場所:体験学習室
講師:村林新吾氏(三重県立相可高等学校食物調理科教諭)
受付:10月4日(金)~10月22日(火)午後5時まで



月別ひのきアート教室「いろはカルタづくり」

地元の特産品である尾鷲ヒノキを使って、いろはカルタを作ります。
日程:9月22日(日)、10月27日(日)、11月24日(日)
すべて午後1時~4時 *連続講座ではありません。

参加料:1,000円
定員:各10名(要申込)
場所:体験学習室
講師:NPO法人ひのきアート空楽風会員



毎週日曜日 あなたも木工作家!その場でできる木工教室

事前申込み不要!来館してその場で気軽に体験することのできる木工教室です。メニューは、お箸・しおりなどのひのきアート、木の動物・木のおもちゃづくりなど週替わりで開催します。

時間:午後1時~3時受付
参加料:200円~1,500円(申込不要)
場所:交流棟ロビー
講師:ひのきアート空楽部会員、川端一氏、大形弥生氏(随時vari)



新しい古道の歩き方

10/19(土) アサギマダラを見に行こうin阪本

御浜町阪本地区で、旅するチョウで知られるアサギマダラを観察・マーキングし、生態を学ぶ学習会をおこないます。

時間:午前10時~午後1時
参加料:300円(保険料含む)
定員:小学生以上 30名(応募者多数の場合は抽選、小学3年生以上は保護者同伴)
場所:御浜町阪本地区
ガイド:山口和洋さん(三重昆虫談話会、熊野の自然を考える会)



11/2(土) 海・山の古道をゆく 灯台周遊ツアー

詳細は決定次第お知らせします。

11/10(日) 秋の古和谷~インクライン跡を訪ねて~

古和谷には多くの落葉広葉樹が生育しています。そんな林道周辺の紅葉を楽しみ、かつて木材の輸送として活躍した森林軌道インクライン跡を見学するツアーです。

時間:午前9時30分~午後3時 *雨天中止
参加料:300円(保険料を含む)
定員:20名(要申込・先着順)
対象:健脚の方
場所:古和谷林道(往復約10km)
講師:内野剛氏
受付:10月10日(木)~10月28日(月)午後5時まで

